

認知症対応型共同生活介護 認知症グループホームくつろぎ

1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

2 今年度重点事業目標

(1) 専門的ケアの実施と個別支援

- ア 基本理念、人権をもとに一人ひとりの視点に立ち、理解・共感、心に寄り添うケアを実施し、入居者の意見や感情を尊重し、その人らしく安心して生活し、意思決定できるよう支援を行う。
- イ 認知症により生じる感情（周辺症状）を、人生を重ねる中で培ってきた知識、体で覚えてきた記憶、大切な人への思い、誇りなど快の感情（うれしさ、喜び、心地よさなど）に転換しポジティブ支援に努める。
- ウ 自発的な役割の活動支援によりＱＯＬ（生活の質・人生の質・生命の質）の向上に努め、生きる自信に繋げる。
- エ 入居者の尊厳を大切に、一人ひとりの思いやニーズに寄り添ったアセスメント・ケア計画の充実に努める。
- オ 一人ひとりの生活リズムや行動特性から危険シグナルを予測し、事故防止と自由な行動の保障の両立を図る。

(2) 職員の資質向上と人材育成

- ア 内部研修（ＯＪＴ）及び外部研修（ＯＦＦ－ＪＴ）などインターネットの活用や幅広い研修形態を活用し専門性の向上を図る。
- イ 認知症ケアの専門的知識、介護の重度化に合わせた医療的知識、技術力の向上を図る。
- ウ 新たな資格取得チャレンジや自己啓発を推進しモチベーションアップを図る。

(3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

- ア 2か月ごとに運営推進会議を開催、くつろぎの情報発信、地域情報に接する機会から社会資源の活用を図り地域の一員として暮らせるよう取り組む。
- イ くつろぎ便りの送付、通信手段の活用、家族との情報共有を密に図り、安心に繋がる信頼関係を築く。
- ウ 近隣施設と協力し防災訓練や緊急時対応訓練を行い、災害時の迅速な対応に備える。

(4) 経営基盤の確立

- ア 医療と連携した健康管理に努め、稼働率97%以上を目指す。
- イ 各災害発生時の備え、訓練、ＢＣＰなど平時より被害を最小限に抑える対策を講じる。また、感染症流行情報をもとに標準感染予防策を徹底し、あらゆる感染症のまん延防止に努める。

(5) 労働環境の整備

- ア ＩＣＴの効果的な活用の推進、業務改善や効率化、課題分析など業務負担軽減に取り組む生産性の向上を展開させる。
- イ 職員の精神的疲労やストレスなど体調管理や早期相談、ストレスチェック、ハラスメント対策など風通しの良い職場環境、風土作りに努める。